

パートナーシップで感染症と闘う

GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金

〒106-0032 東京都港区六本木一丁目9番10号 アークヒルズ仙石山森タワー25階 TEL: 03-6441-2032 FAX: 03-6441-2031 www.ghitfund.org/jp

Copyright © Global Health Innovative Technology Fund / 2025.09

パートナーシップで 感染症と闘う国際機関

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
ジーヒット ファンド
(GHIT Fund)

遺贈寄付のご案内

GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

グローバルヘルス技術振興基金

ジーヒット ファンド (GHIT Fund)とは

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund:ジーヒット・ファンド)は、2013年に日本政府、財団、企業が資金を出し合って創設した官民パートナーシップです。世界で10億人以上の人々を苦しめる「顧みられない病気」と闘い、「誰もが公平に健康を享受できる世界」を目指すため、グローバルヘルスの研究開発に関わる日本と海外の機関を結びつけるネットワークのハブとして設立しました。

GHIT Fundは新薬等の製品開発に対して助成(投資)を行いますが、金銭的なリターンを目的にしていません。マラリア、結核、顧みられない熱帯病に苦しむ患者さんの健康を改善し、命を救うことが目的です。日本発のイノベーション、創薬技術をもって、世界のパートナーとともに「顧みられない病気」に立ち向かいます。

見過ごされてきた「病気」たち

世界には、マラリア、結核、顧みられない熱帯病(NTDs)など、10億人以上がかかり、多くの方が命を落としているにも関わらず、十分な対策がなく「見過ごされてきた」病気があります。中には、妊産婦や胎児、新生児といった未来を担う世代の命を脅かすものも少なくありません。

こうした経済的に貧しい地域に患者さんが集中している病気は、新薬開発に費用と時間がかかる一方で、十分な利益が見込めないため、企業が取り組みにくいことが「見過ごされてきた」原因のひとつです。

この状況を変えるために私たちは、政府、国際機関、財団、企業などと連携し、新薬開発に必要な研究資金を集め、研究開発プロジェクトへの助成金を提供し、また研究者間の協力を促進しています。また、薬やワクチンが必要な人に届くよう、供給体制や使用環境の整備も支援しています。

新薬の開発には長い時間と努力が必要ですが、研究開発の道のりや新しく開発された薬は、数千万人以上の命を救える可能性もあり、50年後も100年後も、人々の健康をまもる礎となります。

健康はすべての人が公平に得られるべき基本的な権利です。

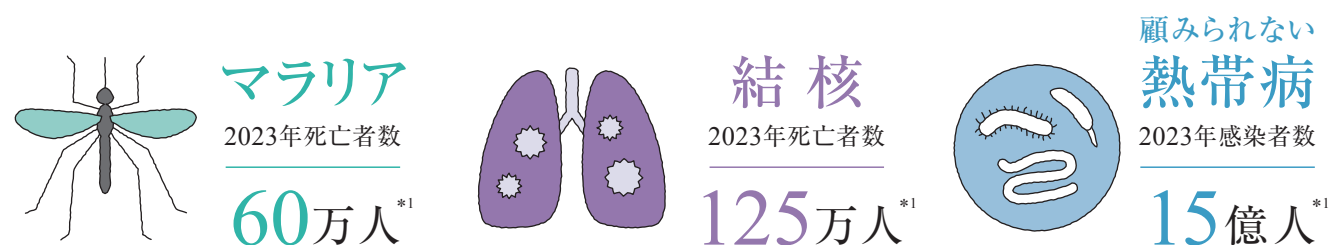
あなたも、未来に健康という財産を残す仲間になっていただけたら、とても嬉しく思います。



國井 修
CEO・専務理事



世界から「見過ごされてきた」病気たち



マラリアや結核、顧みられない熱帯病など様々な感染症で苦しんでいる人は世界にたくさんいます。しかし、治療や予防のための製品が十分になく見過ごされてきました。

^{*1} WHO調べ ^{*2} 国立研究開発法人国立がん研究センター調べ

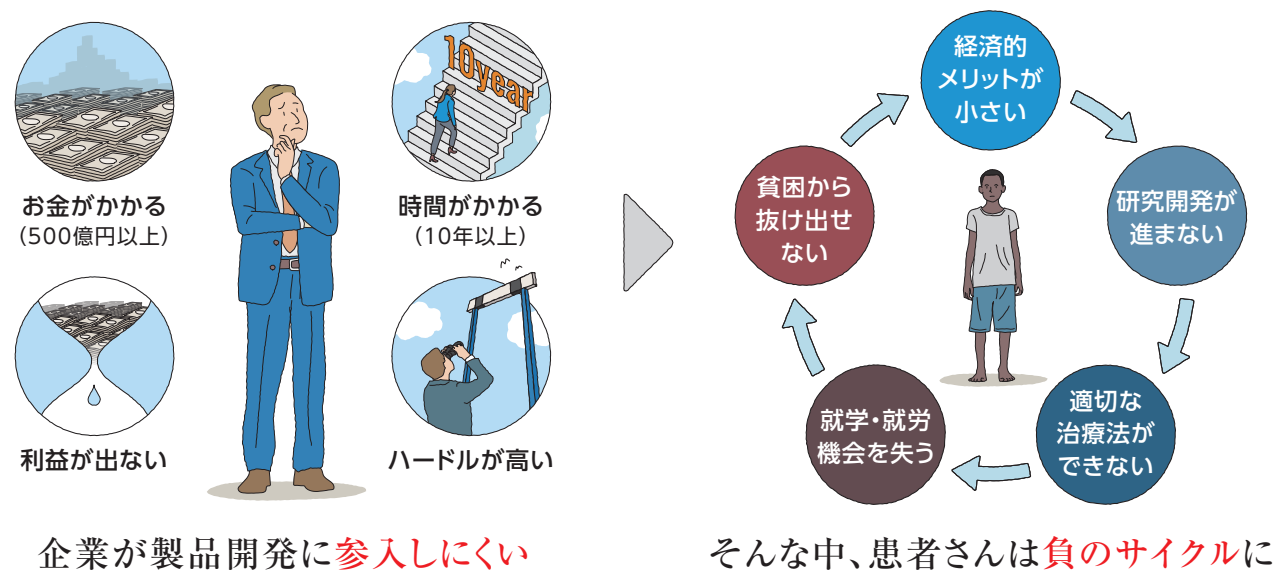
日本人の肺がんによる
死亡者数(2022年)

7.7万人^{*2}

新薬を開発することの難しさ

治療や予防のための製品開発は、多額の資金と長い時間がかかります。

加えて、経済的に貧しい地域に患者さんが集中している病気については、新薬を開発しても利益の見込みが立たず、企業が参入するのが難しいという背景があります。



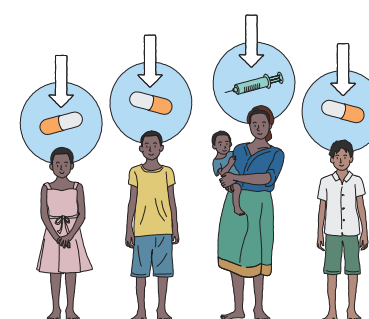
かつては日本も、助けられる側だった

戦後の日本では、感染症は人々の暮らしを脅かす深刻な問題でした

1950年、日本人の死因トップは結核でした。若者も多く亡くなり「死の病」と呼ばれました。戦後すぐの八重山諸島では「戦争マラリア」がまん延し、住民約半分

の1万5千人が感染し、数千人が命を落としました。井戸や川の水を生活用水に使っていたため、コレラ、赤痢、腸チフスなどの水系感染症も広がりました。

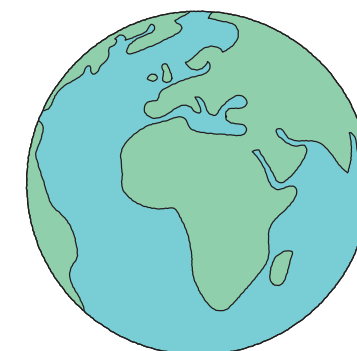
こうした課題に、GHIT Fundは立ち向かいます



Vision

私たちのビジョン

10億人以上の人々を苦しめる
顧みられない感染症をなくすことにより、
誰もが公平に健康を
享受できる世界を目指します。



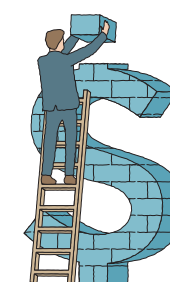
Mission

私たちのミッション

研究開発への投資とグローバルな
パートナーシップを進めることにより、
日本発のイノベーションを活かし、
顧みられない感染症に立ち向かいます。

私たちのアプローチ

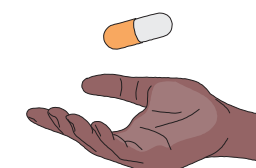
苦しむ患者さんのもとへ、新しい治療薬、ワクチン、診断薬を届けるために、グローバルな官民パートナーシップを通じて、資金調達と製品開発の支援を行っています。



資金調達



製品開発への助成(投資)



患者さんの手に

感染症を克服するため、ワクチンや薬の提供に加え、保健所制度の導入、衛生指導などが行われました。WHOやUNICEFといった国際機関の協力も日本の感染症対策を支えました。こうした歴史をふまえ、今も日本は国際社会の一員として、途上国の健康を守る支援を続けています。



※イメージ写真

パートナーシップの力

私たちは、パートナーシップの力を信じています。日本政府、国際機関、製薬企業、財団など多様なパートナーと共に、感染症に立ち向かっています。また、国内外180機関以上を結び、製品開発を加速化するネットワークを構築しています。

パートナーのご紹介



2025年6月末時点

つながりが世界にあたえるインパクト



これまでの
枠組みを超えた
GHITの存在価値

手代木 功

塩野義製薬株式会社
代表取締役会長兼社長CEO

低中所得国での感染症ビジネスは利益を見込むことができません。企業単独では利益を見込めないのであれば、従来とは異なる開発の枠組みを考えなくては行けない。ここにGHITの存在価値があります。GHITは、低中所得の人々の健康に対して本気で貢献するために、産官学連携で取り組むための事実上初の仕組みです。



貧困国の
「負の連鎖」の
解決を後押し

藤井 泉

アステラス製薬株式会社
サステナビリティ部門ステークホルダー
エンゲージメントグループ 課長代理

顧みられない熱帯病は、適切な治療法がない疾患も多く、感染者が多い国では病気が原因で教育や就労の機会を逃し、貧困に繋がる負の連鎖を生み出すと言われています。幅広いネットワークを持つGHITの包括的な助成によって、日本のグローバルヘルスの研究開発の取り組みが大きく促進したと思います。



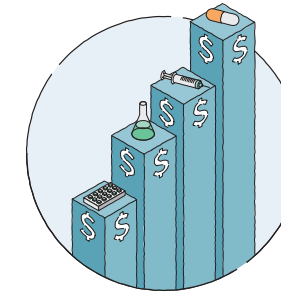
夢の実現への
道筋を見出す
画期的な存在

野崎 智義

東京大学大学院医学系研究科
副研究科長 生物医化学教授

GHITは熱帯病や感染症研究全般において、自分たちの夢が手を伸ばせば届く可能性があることを初めて具現化してくれた組織です。官民パートナーシップで民間とアカデミアを国際的に繋ぎ、創業のプロの指南など多岐にわたる支援のチャンス、熱意ある研修者にも与えることができる画期的な存在です。

数字で
見る
GHIT



これまでの助成額
350億円以上



研究プロジェクト数
130件以上



研究開発パートナー
180機関以上

途上国の幼い命を守る新たな一歩

GHIT Fundは住血吸虫症（じゅうけつきゅうちゅうしょう）という病気の6歳以下の子どもたちへの薬の開発を支援しています。

この病気は、マラリアに次いで2番目に社会経済への影響が深刻な寄生虫症であり、アフリカで推定5,000万人の就学前の児童が感染していると言われています。治療せずに放置すると発育不全や学習障害、臓器の慢性的な炎症を引き起こし、死に至る場合もあります。これまでに就学前の児童に適した治療法が存在せず、見過ごされてきました。



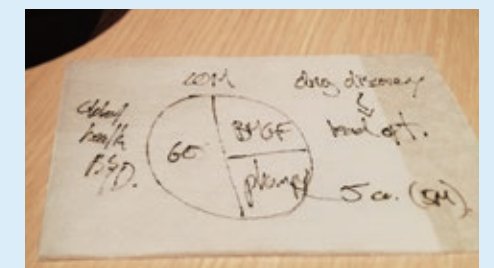
開発から10年以上を経て、2025年3月実装研究の枠組みにおいてウガンダとコートジボワールの6歳以下の児童にGHITが開発支援をした薬が投与されました。

ジーヒット ファンド GHIT Fundの誕生

GHIT Fund（ジーヒット・ファンド）の構想は、2011年9月、当時武田薬品工業の山田忠孝氏とエーザイのBTスリングスビー氏が昼食の席で交わした会話から生まれました。紙ナプキンの裏に描かれたそのアイデアは、日本の製薬企業、政府、国際的な財団が連携し、感染症の新薬開発を推進するというものでした。

2013年、外務省、厚生労働省、ゲイツ財団、国連開発計画、そしてアステラス製薬、エーザイ、第一三共、塩野義製薬、武田薬品など日本の主要製薬企業が参画し、日本発の国際的な官民連携ファンドとしてGHIT Fundが誕生しました。

GHIT Fundは日本の技術や経験を結集し、国内外のパートナーと共同で製品開発を進めることで、世界の感染症対策への道を切り拓いています。その取り組みは、国境を越えた連携と協力の象徴です。今後も皆さまのサポートとともに多くの命を救い、健康格差をなくすことに貢献していきます。

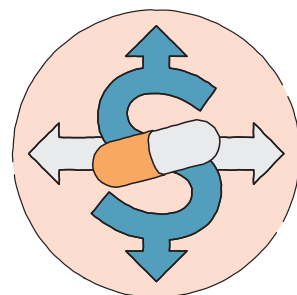


誰もが公平に健康を享受できる世界を目指して

GHIT Fundは、10億人以上の人々を苦しめる顧みられない感染症をなくすことにより、誰もが公平に健康を享受できる世界を目指し、大きく3つの活動を行っています。遺贈寄付を通じていただいた財産は、開発途上国にまん延する感染症の治療薬、ワクチン、診断薬の研究開発の支援などのGHIT Fundの事業活動および運営費に大切に活用させていただきます。

1 研究開発への助成

薬やワクチンが必要な人に届くように、新しい医薬品の研究開発に助成しています。日本や海外の製薬企業、大学、研究機関と協力し、初期の研究（探索研究）から臨床試験、そして薬の承認に至るまで、新薬等の開発を支援します。新薬の研究開発には多額の資金と長い年月が必要です。ビジネスとして収益化が難しい「見過ごされてきた」病気の製品開発を支援し、苦しむ患者さんのもとに薬やワクチンを届け、健康な生活や尊い命を守ることを目指しています。



2 日本と海外のパートナーシップの強化

GHIT Fundの強みは、日本と海外の製薬企業や大学、研究機関をつなぐ橋渡しの役割にあります。日本が持つ優れた技術や知見を、世界のパートナーと結び付け、薬やワクチンなどの開発を促進しています。世界の仲間と力を合わせることで、日本から多くの命を救う新しい取り組みが広がっています。



3 顧みられない病気への理解と協力を広げる活動

結核やマラリアは、かつて日本でも身近で多くの人を苦しめた病気です。医療の進歩などにより日本ではほとんど見られなくなりましたが、世界では今も10億人以上が結核、マラリア、顧みられない熱帯病（NTDs）に苦しんでいます。GHIT Fundは、こうした顧みられない病気の現状や、日本からできることを広く伝え、病気への理解を深め、支援の輪を広げる啓発活動も行っています。



遺贈寄付の流れ

ご生前

STEP
1

寄付先・内容の検討

ご自身の財産を、どの団体にどのような形でご寄付されたいか、ご検討ください。GHIT Fundでは、READYFOR株式会社と連携し、遺言によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談の窓口もご用意しております。
▶「遺贈寄付についてのご相談・お問い合わせ（P12）」をご参照ください。

STEP
2

遺言書の作成

遺言書が、法的に有効なものになるよう、専門家と相談して遺言書を作成します。遺言書の内容を実行する「遺言執行者」も指定します。

STEP
3

遺言書の保管

「公正証書遺言」か「自筆証書遺言」かなどによって、保管方法が異なります。紛失などが起きないように、保管してください。

STEP
4

遺言執行者への連絡

遺言執行者は、報告を受けて、執行を開始します。遺言執行者にご逝去の連絡が届かないと、遺言が執行されないリスクがあります。

STEP
5

遺言の執行

遺言執行者をご相続人に遺言書を開示し、手続きを行います。

STEP
6

ご寄付

遺言に基づいて、GHIT Fundは遺贈寄付を真摯にお受けし、大切に使用させていただきます。遺言執行者に対して、領収書と、ご要望に応じて感謝状をお届けします。

ご逝去後

遺贈の際に注意したい点

お元気なうちからご準備ください

遺言によるご寄付を希望される場合、正常な判断ができる状態の時に、遺言を書くことが大切です。意思能力が衰えてから作成された遺言は、遺言無効の争いになる可能性もあります。

残された方が困らないよう、適切な金額をご検討ください

残された方が困ったり、トラブルになったりすることを避けるために、ご家族と相談されるか、十分に配慮したうえで寄付金額を決められることをお勧めします。遺留分（法定相続人に對して法律上、最低限保障されている相続分）にも配慮し、慎重にご検討ください。

遺言執行者に連絡してくれる人を決めてください

遺言を作成しただけでは、ご意思を実現することはできません。亡くなった時、「遺言執行者」に報告してもらえよう、信頼できる人に依頼しておくとう安心です。

■ 遺言以外の遺贈の方法

相続財産からのご寄付

寄付の金額や方法をご家族の意思で決めてほしいという場合、その想いを生前にご家族に伝えておくか、エンディングノートなどに残されることで、相続人の方にご寄付いただくこともできます。GHIT Fundでは、相続財産からのご寄付を受領後、領収書と感謝状をお送りしています。

香典、供花代のご寄付

葬儀の際にいただく香典、供花代へのお礼を、返礼品ではなく寄付という形でお返しする方法があります。参列された方々に、亡くなった方のお気持ちやお人柄を伝えることにも繋がります。

よくいただくご質問

Q 遺贈寄付はいくらから可能ですか？

遺贈寄付というと、大きな金額でなければできないとお考えになる方がいらっしゃいますが、そんなことはありません。財産の一部だけでも、いくらからでも可能です。皆さまのご好意を大切にさせていただきます。

Q 領収書はもらえますか？

ご入金確認後、遺言執行者またはご相続人宛てに発行します。

Q 不動産や有価証券の寄付はできますか？

預貯金・現金だけでなく、不動産や株式等の遺贈もご相談いただけます。
▶ 下記「遺贈寄付についてのご相談・お問い合わせ」をご参照ください。

Q 遺贈を考えていますが、誰に相談すればいいですか？

弁護士、税理士、司法書士、行政書士、信託銀行など、信頼できる専門家にご相談されることをおすすめします。またGHIT Fundでは、READYFOR株式会社と連携し、遺言によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談の窓口もご用意しております。
▶ 下記「遺贈寄付についてのご相談・お問い合わせ」をご参照ください。

Q 遺産寄付に相続税はかかりますか？

遺言によるご寄付（遺贈）は、相続税の課税対象になりません。相続財産からご寄付される場合は、相続開始から10ヶ月以内に、領収書を添えて相続税の申告を行うと、寄付した財産分は非課税となります。相続税申告をされる場合は、領収書とともに当法人発行の「相続税非課税証明書」をご用意いたしますのでご連絡ください。

■ 遺贈寄付についてのご相談・お問い合わせ

ジーヒット ファンド レディーフォー
GHIT FundはREADYFOR株式会社と連携し、
遺言によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。

※レディーフォー遺贈寄付サポート窓口は、遺贈に関するご相談を受ける窓口で、何度でも無料でご相談いただけます。遺贈寄付のご意向や、寄付先・金額などの詳細が決まっていない方でも、どうぞお気軽にご相談ください。生命保険、不動産や有価証券による遺贈寄付にも対応しています。

レディーフォー遺贈寄付
サポート窓口



0120-948-313

通話料
無料

受付時間：平日10:00～17:00（年末年始を除く）

*当法人では反社会的勢力と認められる個人・法人・団体からの寄付については受入れず、また、受入れ後に寄付者が反社会的勢力であることが判明した場合には返還いたします。詳細はウェブサイトをご確認ください。